

平成30年度教育事業

体験活動普及啓発事業

「親子でたのしむ！唄と絵本のせかい in さんべ」

1 趣 旨

- ・子守唄や童謡のすばらしさを知り，親子活動の促進を図る。
- ・絵本や読み聞かせのすばらしさを知り，進んで読書活動をする子供を育てる。
- ・交流の家で生活することで，家族の絆を深めることや時間を守るなどの基本的な生活習慣を確立するきっかけづくりを行う。

2 事業の概要

- (1) 期 日 平成30年11月17日(土)～11月18日(日) <1泊2日>
- (2) 会 場 国立三瓶青少年交流の家
- (3) 対 象 ①幼児～小学校低学年(5～8歳程度)とその家族(宿泊)
②子守唄・童謡等の鑑賞に興味のある方(日帰り)
③図書館関係者や読み聞かせグループ等絵本に興味のある方(日帰り)
- (4) 参加者 宿泊 : 63名(20家族) ※募集150名
日帰り : 30名 ※募集50名
- (5) 講 師 NPO 法人日本子守唄協会(ふれあいファミリーコンサート)
絵本作家 村上康成氏(みんなで描く「くじらのバース」トーク&ワークショップ)
- (6) 日程・研修内容

	13:00	14:00	15:00		16:30	17:10	19:00		20:00	22:00	22:30	
11月17日 (土)		受付	はじまりの会	ふれあいファミリーコンサート ※NPO法人日本子守唄協会によるコンサート			夕べのつどい	夕食・入浴	A 天体観察会(サヒメル) B 絵本読み聞かせ C 自主活動	入浴・休憩	就寝準備	就寝
	6:30	7:00	7:40	9:00	9:30	12:00						
11月18日 (日)		起床	朝のつどい 清掃	身辺整理	退所点検	みんなで描く「くじらのバース」 トーク&ワークショップ	サイ解散会					

3 事業の特色

① 事業の特色

本事業は、例年実施している読書活動推進事業に、初の試みである子守唄や童謡の要素を取り入れることで、従来よりも親子活動を充実させることをねらいとしている。

② 運営のポイント

1日目の「ふれあいファミリーコンサート」では、参加者に子守唄や童謡のすばらしさを知ってもらうために、非日常的な空間を演出するため、コンサート会場の音響や照明、装飾を工夫した。夜は、天体観察会や絵本の読み聞かせ等を行い、ゆっくりとした時間を家族で過ごせるようにした。

2日目は、絵本作家の村上康成氏が読み聞かせを行った絵本「くじらのバース」を題材に、みんなで大きなくじらのバースを作成した。参加者全員で1つの作品を作り上げ、絵本の世界観を表現し、共有することで、絵本や読み聞かせの楽しさを感じることができるよう工夫した。

③ 広報のポイント

今年度初の幼児を含む家族向けの事業であったため、各市の子育て支援課等と連携し、保育園・幼稚園等に広く広報することができた。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計

(家族) (2) 参加者の声

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	10	4	0	0
プログラム	9	5	0	0
運営	10	4	0	0
職員の対応	12	2	0	0

- ・幼児向けのイベントを探していたため、とても楽しく過ごすことができた。
- ・それぞれのプログラムに個性があり、子どもも飽きずに楽しめた。
- ・スタッフの対応が丁寧で、安心感がある。

5 成果と課題

《成果》

- ・「ふれあいファミリーコンサート」では、参加者がリズムに合わせて身体を動かし、家族やゲストと触れ合いながら歌う場面があり、子守唄や童謡のすばらしさを「体験」を通して感じることができた。
- ・絵本作家によるトーク&ワークショップでは、絵本作家本人による読み聞かせや解説、絵本に登場する生き物を実際に描くことで、その世界観に入り込み、絵本の魅力を知ることができた。また、1人1作品を作成することによって、それぞれの工夫をお互いに共有する機会になり、家族の中でのコミュニケーションを促進するきっかけとなった。

《課題》

- ・一般的なコンサートは、「静かな空間で音楽を聴く」というイメージがあるが、今回は「体験型」のコンサートであったため、そのことをより前端的に広報しておけば、参加者もより気軽に応募できたのではないかと考える。
- ・今回、募集定員には達せず、93名の参加であった。原因としては、対象者を幼児まで広げたが、宿泊の利用が難しかったこと、広報先の保育園・幼稚園の行事、研修が重なっていたことなどが考えられる（日帰りは可能かという問い合わせが何件もあった）。対象や時期をより精査し、日帰りの可能性も考えて、より多くの利用者が事業に参加できるように見直しを行う必要がある。



(担当：事業推進係 狩谷 順子)